

組織・指導体制とPRの強化

JAおおいたGAP研究会

事務局

(大分県農業協同組合 園芸販売部 園芸課) 米田 明史

組織・指導体制とPRの強化

1. 大分県 について
2. JAおおいた について
3. JAおおいたGAP研究会 について
4. 課題とこれまでの取り組み について

1. 大分県 について

山間地:約40%
中山間地:約40%
平地:約20%

- ・標高0mから1000m近くまで耕地が分布
- ・耕地面積の約70%が中山間地
- ・森林面積が県土の71%

2. JAおおいた について

- ▶ 2008年(平成20年) 6月 1日 大分県内16JAが合併して組成
- ▶ 2010年(平成22年) 9月 1日 1JAが合併
- ▶ 2021年(令和 3年) 4月 1日 2JAが合併

組合員数	100,905人	職員数	1,795人
販売品販売高	34,980百万円	購買品供給高	18,343百万円
貯金残高	564,728百万円	長期共済保有高	1,621,068百万円

(2025年3月末)

合併以来、旧JA単位から6エリアの運営体制に変遷

2022年(令和4年)10月から

- ・金融共済・生活部門は本店と支店・事業所が直結
- ・営農経済部門(一部管理部門)は、営農経済センターとして、6エリアで運営

3. JAおおいたGAP研究会 について

JAおおいたGAP研究会は、GAP認証の取得に取り組む生産者の組織で、JGAPの団体認証を受けています。

JAおおいたは、「JAおおいたGAP研究会」の事務局(内部監査を含む)として会員(生産者)のJGAP認証の取得・維持を支援しています。

【認証の状況】 (2025年4月1日)

- ・会員数:161農場
- ・品目数:21品目
- ・支部:13支部
- ・農産物取扱施設:15施設
(補完施設:4施設)

3. JAおおいたGAP研究会 について

(1) 経緯・これまでの取り組み

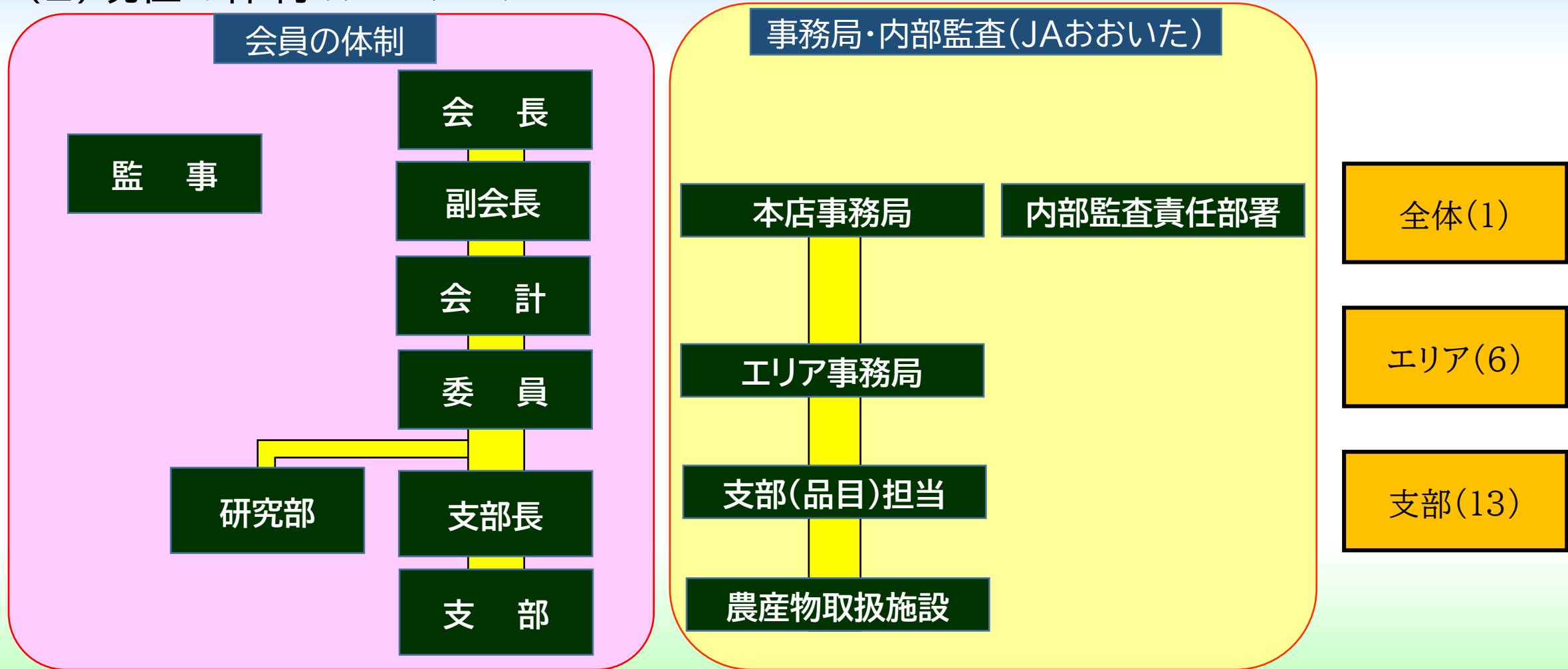
年度	取り組み事項	年度	取り組み事項
2011	GAP認証の準備開始(6月)	2019	2品目追加 (166農場)
2012	いちご部会 JGAP認証取得(10月)	2020	1品目追加 (178農場)
2013	みつば部会・柑橘部会 JGAP認証取得(2月)	2021	「研究部」設置 (166農場)
2015	「JAおおいたGAP研究会」設立(9月)	2022	2品目追加 (172農場)
	JAおおいたGAP研究会 JGAP認証取得	2023	(166農場)
2017	3品目追加 (66農場)	2024	(161農場)
2018	4品目追加 (160農場)		

各種受賞歴

年度	項目
2016	GAP普及大賞 受賞
2017	大分県農業賞 最優秀賞 受賞
	農林水産省「未来につながる持続可能な農業推進コンクール『GAP部門 団体部』」生産局長賞 受賞

3. JAおおいたGAP研究会 について

(2)現在の体制 (令和7年4月)



4. 課題とこれまでの取り組み

生産者にとっての課題

- ① 手間がかかる
- ② 金銭的な負担
- ③ 基準書に則った記録が必要
- ④ (費用や作業を)負担するだけで効果が出ない
- ⑤ 部会内で全員が取り組まなければ意味がない
- ⑥ メリットが見えない

(「脱退届『脱退理由』」から抜粋)

4. 課題とこれまでの取り組み

課題

(1) 機能・役割に関する課題



① 「役割分担表」はあるものの、基準書に無いそれぞれの機能・役割が不明確

(2) 生産者に関する課題



① GAPに対する認識と理解が必要
② 取り組み・様式に負担感がある

(3) 指導員に関する課題



① 内部監査への対応が困難
② 指導員の資質に差がある

(4) 販売に関する課題

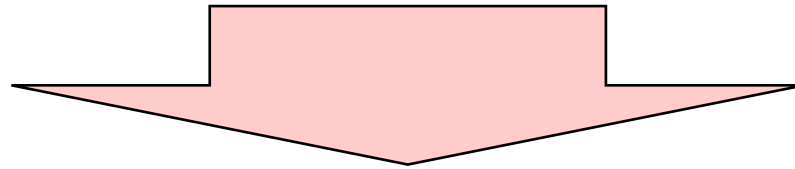


① 販売でのメリットに繋がっていない
② 認証農産物のPR

4. 課題とこれまでの取り組み

(1) 機能・役割に関する課題

① 基準書に無いそれぞれの機能・役割が不明確

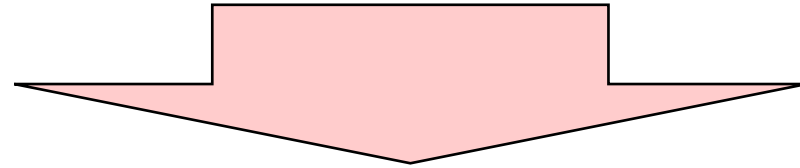


- ▶ 「役割分担表」の見直し
- ▶ 「規約」を改正し、それぞれの機能・役割を明確化
- ▶ 2022基準への移行に合わせ、基準書の内容の一部を「規約」に反映

4. 課題とこれまでの取り組み

(2) 生産者に関する課題

- ① GAPに対する認識と理解が必要
- ② 取り組み・様式に負担感がある

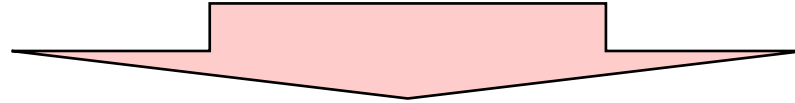


- ▶ 日常的指導の導入
 - ⇒ 営農指導の際にGAPの基準を踏まえた指導の実施
 - ⇒ エリア事務局・支部(品目)担当者の活動報告を徹底
- ▶ 「団体管理マニュアル」の見直し
 - ⇒ 類似項目を集約し項目数の削減と様式の見直し

4. 課題とこれまでの取り組み

(3) 指導員に関する課題

- ① 内部監査への対応が困難
- ② 指導員の資質に差がある




- ▶ JGAP指導員の増員
⇒ 配置基準を策定し、エリア別配置人数を提示
基礎研修に14名、団体認証研修に10名が参加し指導員資格取得
- ▶ 内部監査時の質問方法(話法)
⇒ 基本的な質問話法の研修会を実施(県主催・課題解決研修)
- ▶ 5Sやムダの排除等に関する指導力の向上
⇒ トヨタ式現場カイゼン研修の開催(県と共催)

4. 課題とこれまでの取り組み

(4) 販売に関する課題

- ① 販売でのメリットに繋がっていない
- ② 認証農産物のPR



▶ 日本農業新聞への寄稿

⇒ これまで13回寄稿し、全国版・九州版・大分県版に掲載

▶ 職場報への掲載

⇒ 全職員向けのインフォメーションでGAPの取り組みを紹介

▶ 消費者等の認知度向上 (知らなければニーズは生まれない)

大分県農林水産祭での『GAP・PRブース』の設置

⇒ パネル・リーフレットを作成して掲示・配付

JGAP認証農産物が当たるクイズとゲーム・抽選を実施

4. 課題とこれまでの取り組み

消費者等へのPR

⇒ 大分県農林水産祭「GAP紹介ブース」



JAおおいたGAP研究会は
GAPアワード 2025

を受賞しました

GAPアワードとは

年に一度、GAPの普及を一層推進し、持続可能な農業の未来を切り拓く、優れた取り組み事例を表彰するものです。
2025年度は、JAおおいたGAP研究会を含め、全国で3団体が受賞しました。



Check

JAおおいたGAP紹介ブース 参加クイズ

お住まい	市・町・村	性別(任意)	男性・女性
年齢	20歳未満・20代・30代・40代・50代・60代・70歳以上		

クイズ(Q1~Q6)とアンケート(1~3)に答えてJGAP認証農産物をGETしよう

《該当するものに“○”をして下さい》

Q1. GAPとは、良い農業の取り組みを表すもので、GAPの基準に適合していることを の審査員が確認し、認証を取得するもの。

ア. JAおおいた イ. 第三者機関 ウ. 機関車トーマス

Q2. GAPの基準には、、環境保全、労働安全、人権の尊重を実践するための項目が定められている。

ア. 満腹 イ. 食料自給率向上 ウ. 食品安全

Q3. GAP認証農家は、計画、実践、、見直し・改善を繰り返し、より安全・安心な農産物の生産に取り組んでいる。

ア. 味見 イ. 休憩 ウ. 点検・評価

Q4. GAPでは、農作業の工程ごとにを抽出し、対策を講じている。

ア. サンプル イ. リスク ウ. ラスク

Q5. JAおおいたは、主にの認証取得に取り組む生産者を支援している。

ア. Jリーグ イ. JGAP ウ. JAアラート

Q6. GAPの取り組みは、にもつながっている。

ア. SDGs イ. USJ ウ. ローマ

以下のアンケートにもご回答をお願いします。

(1)これまで農産物のGAP認証制度をご存知でしたか？

ア. 知っていた イ. 知らなかった

(2)農産物を購入する際、何を重視していますか？

ア. 価格 イ. 見た目 ウ. 産地 エ. その他()

(3)今後JGAP認証農産物があれば買おうと思いますか？

ア. 思う イ. 思わない ウ. どちらとも言えない

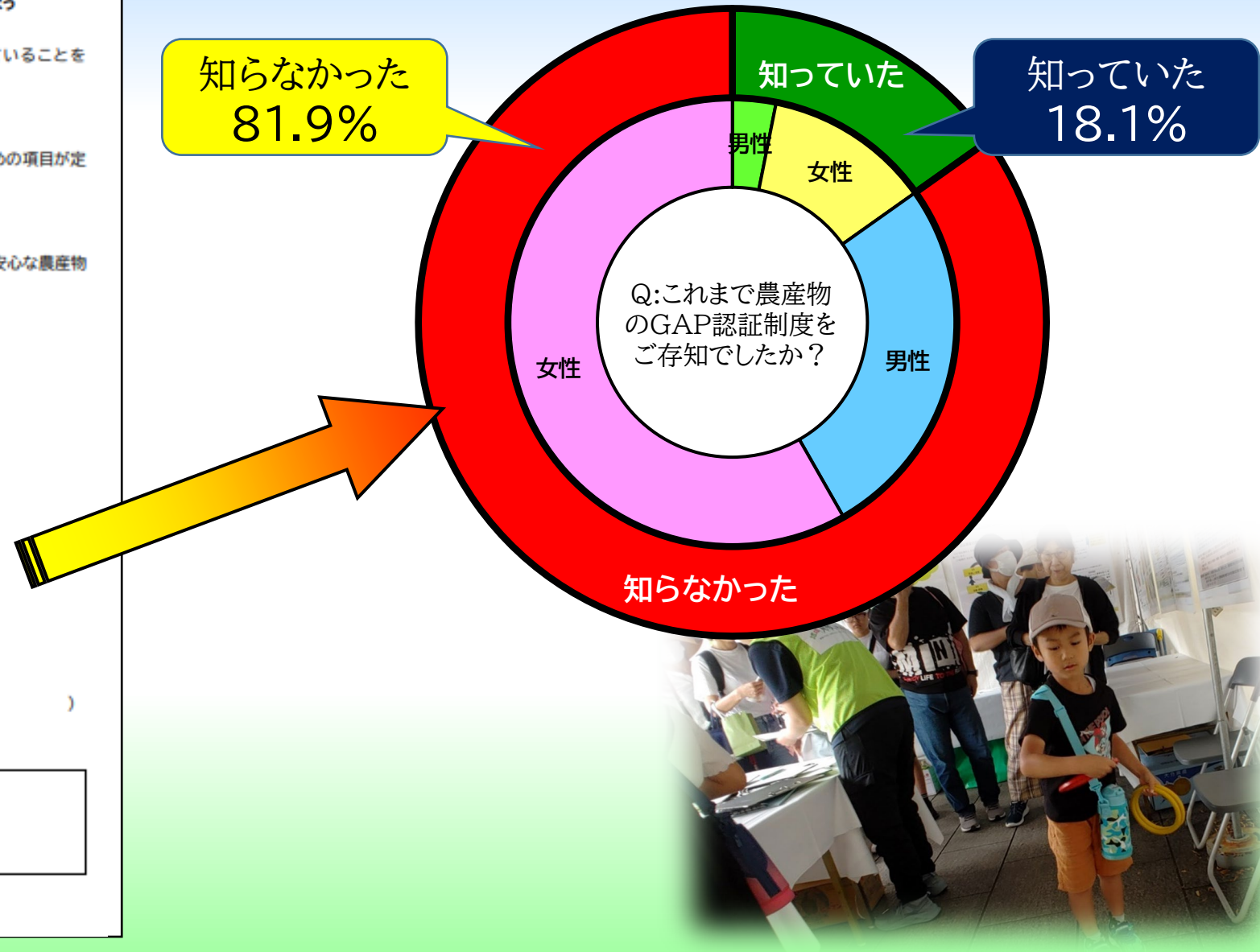
《ご意見等がございましたらご記入をお願いします》

ご協力ありがとうございました。

これからもJAおおいたのJGAP認証農産物をよろしくお願い致します。

GAP認証制度の認知度

(大分県農林水産祭2025GAP紹介ブースアンケート結果による)



4. 課題とこれまでの取り組み

消費者等へのPR

⇒ みのりみのる「トマトメニューフェア」



赤採りトマトフェア

9月21日(土)22日(日)23日(月)

3日間限定!!

竹田市萩町産のトマトを使用した
「トマト尽くしプレート」



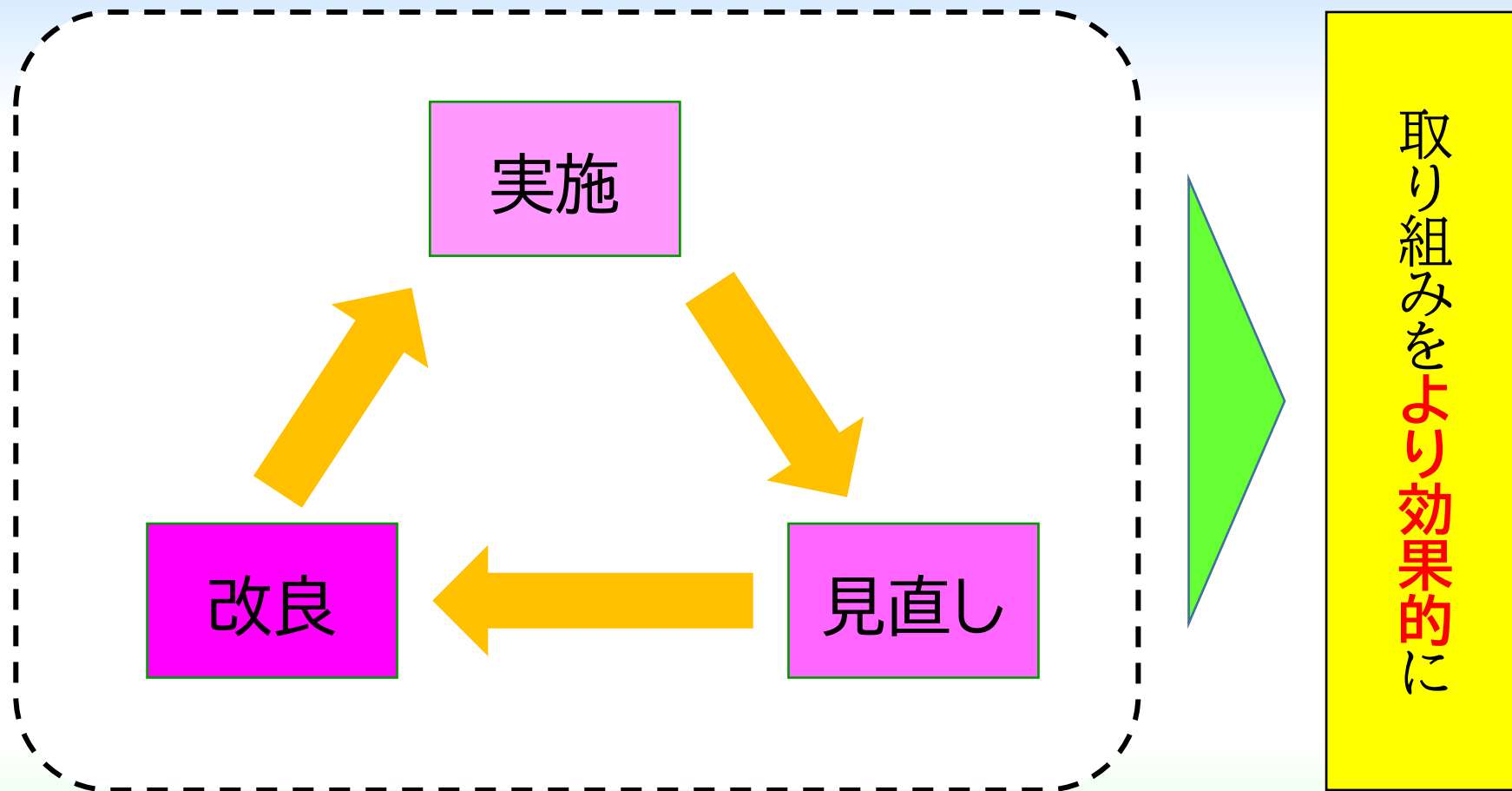
赤採りトマトづくしヘルシープレート
1,590円(税込1,749円)

今回、竹田市萩町のトマトを使用したトマト盛りだくさんのプレート
を3日間限定で提供いたします。ご飲食いただきましたお客様にトマト
をお配りいたします。(1名につき1玉)

※写真はイメージです
※アレルギー対応メニューはスタッフまでお問い合わせ

みのりみのる

ちゃんとしている生産者にメリットを実感してもらえるよう



ご清聴ありがとうございました